チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注１）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	New Normal 時代において人と動物が持続的に共生できる地域社会のあり方	倉敷市
チームがつけたアイデア名（注 2）（公開）	倉敷市「自然・どうぶつ共生マップ」		

（注１）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注 2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

１．応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	一般社団法人データクレイドル　まちケア運営チーム	
チーム属性（公開）	１．市民、2．市民／学生混成、３．学生	1
メンバー数（公開）	３名	
代表者（公開）	大島　正美	
メンバー（公開）	安達吾郎 藤原麟雨	

【注意書き】※　必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

１．　応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

２．　アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

３．　公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示ー非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja、および、https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja　をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）

４．　上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）

５．　この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

６．「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。

７．「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2．の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

2．アイデアの説明（公開）　　(1) アイデアの内容（公開）

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたくなる**、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**２ページ以内**でご記入ください。

＜応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください＞

学校や町内会などで「自然や動物との共生」について考え、話し合ったことを、共有していく取り組みの積み重ねが「ひと・自然・動物が共生するまち」につながると考えます。そのために、市民参加の「情報」集め、考える「きっかけ」づくり、共有する「場」づくりを提案します。

＜この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで・・・＞
＜「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます＞
＜よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です＞

■倉敷市の課題

鳥獣目撃情報については、倉敷市ではイノシシ・サル・シカの市街地での目撃情報が毎年、随時寄せられています。一方、倉敷市には、「蛍遊の水辺・由加」に代表されるホタル観賞スポットのほか、市内の随所にホタルの生息箇所が存在しています。

地域に存在する様々な動物たち。「自然の恵みと ひとの豊かさで 個性きらめく倉敷」にとってこれからの時代にふさわしい動物との関わり方はどういったものでしょうか。

ワンヘルス・アプローチの観点からは、動物と環境（生態系）の衛生問題を改善し、健全な人間社会の構築を目指す取組が考えられます。また生物多様性の観点からは、愛知目標の実現に寄与しうる自然保護の取組が考えられます。どのような観点で動物との共生を考えるかは問いません。また対象とする動物の種類も問いません。

SDGs との関係

この地域課題は生物多様性と生態系の保全の観点を持つ関連で、SDGs のゴール 15（陸上生態系の保護、回復と持続的利用の推進、持続可能な森林管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および転換、ならびに生物多様性損失の阻止を図る）に寄与します。

■アイデアの概要

（１）市民参加の「自然・動物発見情報」集め

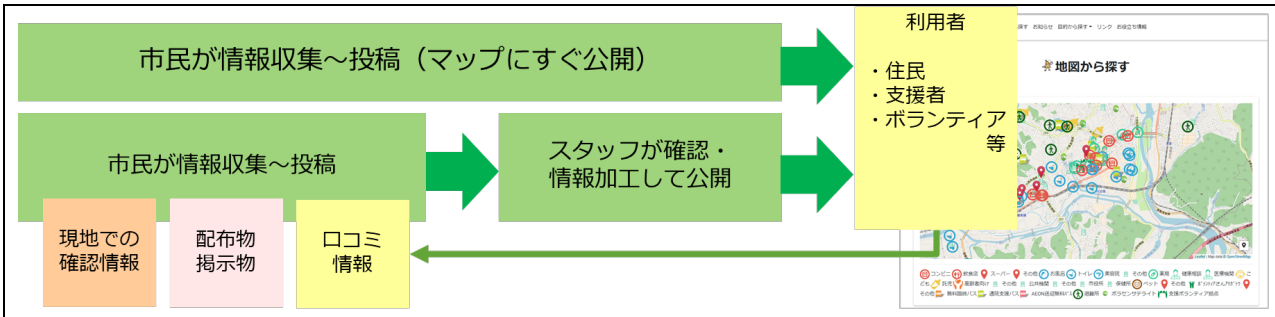
地域に存在する様々な動物たちの目撃情報を、市民投稿により数多く収集・蓄積する仕組みをつくります。

被災地で、色々な人々から必要な情報をできるだけ素早く集めて発信する情報サイト「まちケア」の仕組みを活用して、市民からの「**自然・どうぶつ発見情報**」を収集します。

現在のオープンデータとして公開されている、イノシシ・サル・シカ目撃情報のデータ項目（管理項目以外）は、種、性別、個体数情報、日時情報、所在地情報、状況、情報提供者（匿名）、備考ですが、情報提供者が同じ人かどうか、よく通る道で発見したのか、たまたま通った際に発見したのか、など投稿者属性、まわりの環境（農産物が実っていた、花が咲いていた、ゴミステーションが近いなど）、かかわりによる感情（癒しなどポジティブ、被害・脅威などネガティブ）の情報も収集できるようデータ項目を追加して、投稿フォームを設計・作成します。

「まちケア」の情報収集フロー

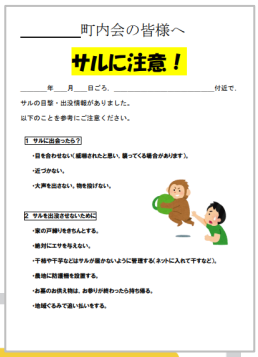
2．アイデアの説明（公開）　　(1) アイデアの内容（公開）



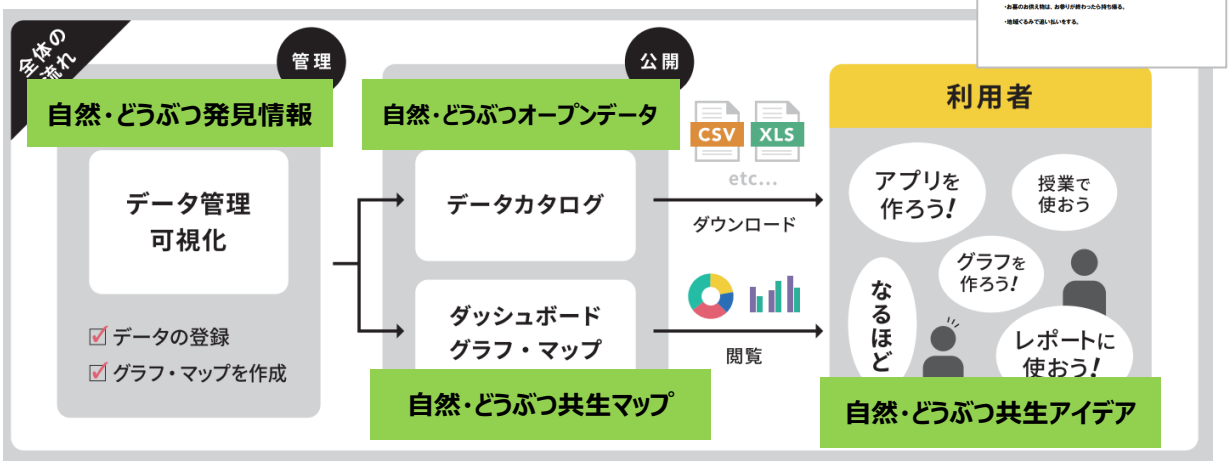
（２）考える「きっかけ」づくり

蓄積した「**自然・どうぶつ発見情報**」を、地域の自然や生活の環境等の情報と組み合わせてマップやグラフで可視化することで、自分が暮らすまちの現状を知り、学校や町内会などで「ひと・自然・どうぶつが共生するまち」について考え、話し合うきっかけをつくります。

倉敷市オープンデータカタログには、データの可視化機能があります。投稿した「自然・動物発見情報」を掲載できる「**自然・どうぶつ共生マップ**」を用意し、学校や小地区での地域発見ワークショップや勉強会にも提供します。



倉敷市のオープンデータ公開・活用フロー



（３）共有する「場」づくり

個人や学校や町内会などで「ひと・自然・どうぶつが共生するまち」について考え、暮らしの工夫やルールなど話し合ったことを、共有できる場をつくります。

バーチャルな「場」として、倉敷市オープンデータカタログのデータ活用提案「アイデアボックス」を活用します。蓄積したオープンデータ「**自然・どうぶつ発見情報**」、「**自然・どうぶつ共生マップ**」を参考に、個人や地域で考えたこと、話し合った暮らしの工夫やルールなどを「**自然・どうぶつ共生アイデア**」として投稿していただきます。

「**自然・どうぶつ共生アイデア**」は、投稿者承諾を得て公開することで、他の学校や他の地域における活動の参考としていただきます。

「ひと・自然・どうぶつが共生するまち」について考えるワークショップ等リアルな「場」の実現、地域の官民の SDGs の取り組みとの連携も進めていきます。

2．アイデアの説明（公開）　　(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

＜このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます＞

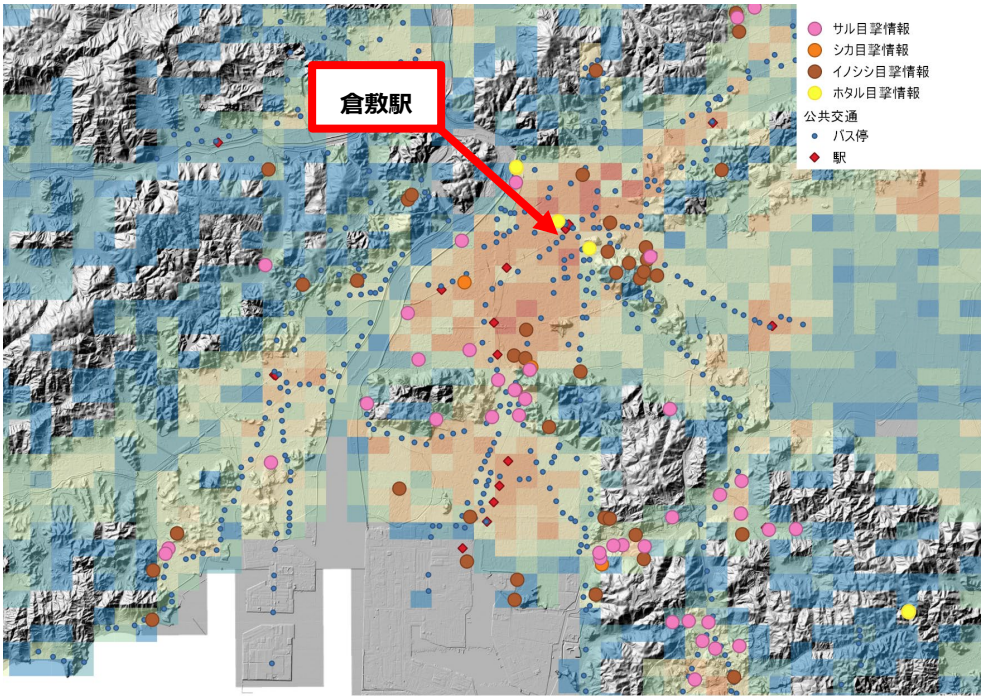
＜先の（１）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます＞

■公開情報からわかったこと

倉敷市が公開しているオープンデータをもとに、イノシシ・シカ・サルの目撃情報、ホタルマップ（市民投稿情報）を地図上にプロットし、人口分布、公共交通機関（駅・バス停）情報を重ねてみることで、市街地付近でもイノシシ・シカ・サルが目撃されていること（想定よりサルが多い）、市街地付近でホタルの投稿情報があることを確認しました。

倉敷市のイノシシ・シカ・サル目撃情報　：　https://kurashiki.dataeye.jp/datasets/1696

倉敷市ホタルマップ　：　https://kurashiki.dataeye.jp/datasets/1697



（１）ホタル

ホタルについては、生息地として知られており、例年ホタルまつりも行われている児島由加に関する投稿情報でしたが、倉敷駅北口の倉敷みらい公園、観光地である美観地区や酒津で目撃情報がありました。調べてみると、酒津のホタルを親しむ会が、いずれも幼虫の放流したりホタルを飛ばす取り組みを 2008 年行っているエリアでした。

出典：倉敷経済新聞 https://kurashiki.keizai.biz/headline/48/

個体数情報	個体数	日付	目撃地	状況
ヘイケボタル	3	2020/5/28	倉敷美観地区	倉敷考古館横の水辺の草の茂みの中で明滅
ゲンジボタル	6	2020/5/31	倉敷市酒津	酒津の配水池西のビオトープの中の草むらで明滅
ゲンジボタル	20	2020/6/5	倉敷みらい公園	倉敷用水の水面で飛び交っていました。
ゲンジボタル	100	2020/6/5	倉敷市酒津	酒津のさつき橋近くの水辺で明滅

（２）イノシシ・サル・シカ

イノシシ・サルは、目撃情報は増えていますが、特に多い令和２年度（9 月まで）のサルの目撃場所 45 件中約半数が子育施設・学校付近（16 件）、駅・商業施設付近（5 件）、公園・神社等（5 件）等人が集まる場所でした。目撃時期（季節）については、イノシシは 10 月～12 月、サルは 7～9 月が多い傾向が確認できました。

しかし、現在の目撃情報では、個体数が変化しているのか、生息地が変化しているのか、情報提供者の数やエリアが変化しているのかなど詳細は不明であるため、情報投稿者属性や地域の状況との紐づけが必要だと感じました。

イノシシ・サル・シカ目撃情報（件数）確認個体数（頭）

	H30 年度		H31（R1）年度		R2 年度（9 月まで）	
	目撃情報件数	確認個体数	目撃情報件数	確認個体数	目撃情報件数	確認個体数
イノシシ	13	24	15	9	16	25
サル			3	3	45	59
シカ			3	3	1	1

■資料調査

『倉敷の豊かな自然と瀬戸内の恵みを未来へつなぐために』行政だけでなく市民、生産者、企業、教育機関など多様な主体が協働で取組む計画として、生物多様性基本法に基づく「倉敷市生物多様性地域戦略（平成 26 年 3 学策定）」が策定され、以下の４つの基本的な取り組みが示されています。

① 知る　：倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしのつながりを把握する
② 守る　：身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する
③ 使う　：生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する
④ つくる：倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う

「倉敷市鳥獣被害防止計画（令和２年度～令和４年度）」によると、被害としてはイノシシ等による農作物の被害が顕著ですが、サルは住民を威嚇するなど生活環境被害も発生しているそうです。同計画では、今後の取り組みとして、「個体数管理」「被害管理」「生息地管理」の３点から総合的に対策を行い，鳥獣被害の防止を図る。と記載されています。

・個体数管理（捕獲・狩猟者の確保・育成、ICT の活用）
・被害管理　（防護柵設置費用助成・指導助言）
・生息地管理（環境整備及び普及啓発）

上記の現状と今後の方向性から、「知る」ことからはじめ、自然や動物と共生できる人づくり、地域づくりへつなげたいと考えました。

まずできることとして、市民が日々の暮らしの中で観察・発見した動物の情報を継続して数多く集めること、日時や位置情報、種・個体数の基本情報以外にも、見つけた状況（いつもの道、たまたま通った等）、環境の様子（農産物が実っていた、花が咲いていた、ゴミステーションが近いなど）、かかわりによる感情（癒しなどポジティブ、被害・脅威などネガティブ）の情報もあわせて自然と動物発見情報を集めて、蓄積することからはじめます。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス、**実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます＞

■実現する主体

倉敷市との連携のもと一般社団法人データクレイドルが主体的に活動を推進します。

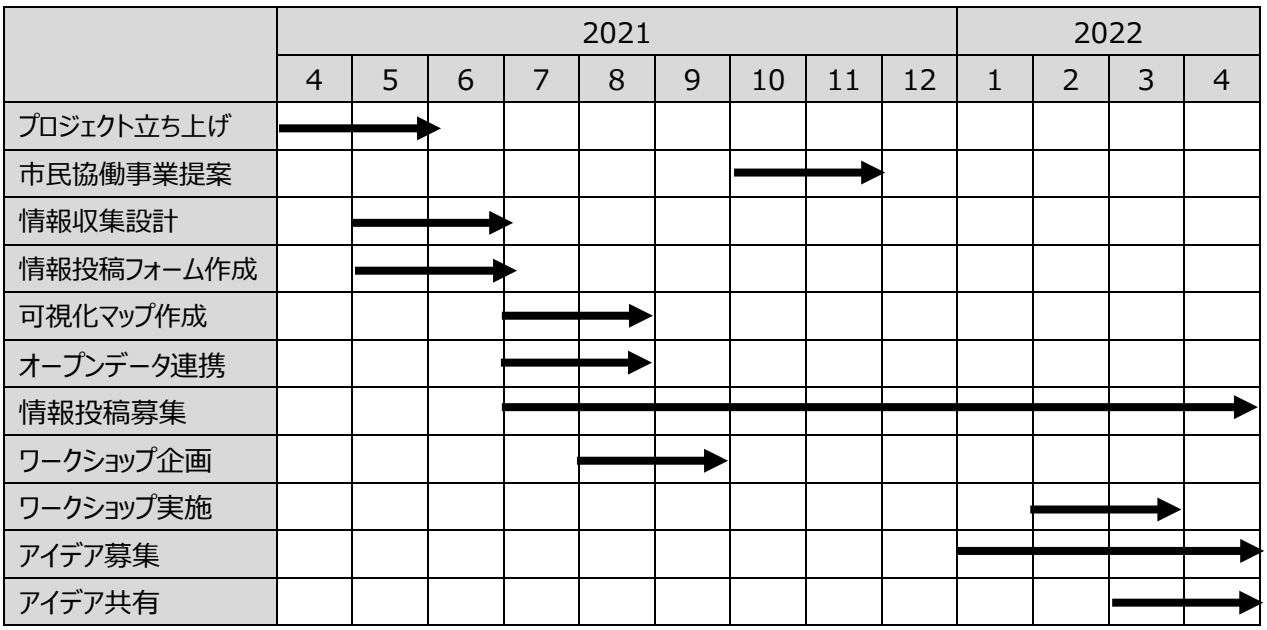
（活動の拠点は倉敷市委託データ分析サロン）

■実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

既存のシステム資源（倉敷市オープンデータプラットフォーム、まちケア）を活用し、市民や学生、企業等の SDGs の取り組みとの連携など、多様な方々とのパートナーシップで実現を目指します。

<table>
<tr><th></th><th>ヒト</th><th>モノ</th><th>カネ</th></tr>
<tr><td>自然・どうぶつ発見情報</td><td>市民、学生等投稿</td><td>「まちケア」情報投稿プログラム活用</td><td rowspan="2">市民協働事業提案</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自然・どうぶつ共生マップ</td><td rowspan="2">弊社管理</td><td>「まちケア」マッププログラム活用</td></tr>
<tr><td rowspan="2">倉敷市オープンデータ
プラットフォーム活用</td><td rowspan="2">倉敷市オープンデータ
プラットフォーム運営費</td></tr>
<tr><td>自然・どうぶつ共生アイデア</td><td>市民、学生等検討</td></tr>
</table>

■実現までのスケジュール



※ワークショップはオンライン形式での実施も想定